

かわかみ通信 むすび

2021年9月
長月号

皆様にはいかがお過ごしでしょうか。新型コロナウイルスの流行、異常気象など不安なことばかりです。オリンピック・パラリンピックは何とか開催することができましたがそれらの不安を拭い去る程の感動は起きなかったように思います。

皆さんは「タラレバ」という言葉をご存じでしょうか。レバーとタラを炒めた料理のことではありません（笑）。あの時こうしていたら（・・・）、ああすれば（・・・）よかったのという後悔の気持ちを表す言葉です。ゴルフ競技でよく使われます。特に我々へたくそなアマチュアゴルファーがよく使うのです。ゴルフはよく人生に喩（たと）えられますよね。山あり谷あり、うまくいく日もあれば、サッパリの日もあるからです。一人ひとりの人生だけでなく、社会・国の歴史を見ると「タラレバ」と、つい思ってしまうものが多くあります。

最近、旧氣比神宮寺の歴史を持つ現存六ヶ寺が「角鹿（かくろく）会」という団体を結成されました。敦賀の活性化に資したいとの主旨だそうで、今回その六ヶ寺を巡ってきました。

ところで、神宮寺とはどういうものでしょうか？ 神宮寺とは神願寺、神護寺、神供寺、神宮院、別当寺、宮寺などとも称されたようです。僧侶が神前に読経、加持祈禱をし、香花を供して礼拝をしたようです。（最近でも奈良春日大社で行われていたように記憶しています）

仏教と神社神道は最初対立していましたが、次第に接近し、神仏習合が行われ、本地垂迹説（ほんじすいじゃくせつ）がでてくると神祇（じんぎ）は仏教の儀式によって祭祀されるようになり神宮寺が多く作られるようになったとのことです。（八幡信仰史の研究）

寺院は古くは血縁、祖先供養の氏寺としてのものであったが（私的寺）、人格を持つ神の出現に合わせて、神の為の寺へと性格を変えたものが作られるようになったということでしょうか。応神天皇＝八幡神という八幡信仰の形成がきっかけになったのではないかと私は考えています。その意味では大分の宇佐神宮の神宮寺が始まりということになりますが、どうでしょうか？ 氣比神宮の神宮寺は715年に創建されたことになっており、日本で最も早く作られたものの一つである可能性があります。（織田の劍神社、小浜の若狭比古神社の神宮寺も710年代）

旧神宮寺のひとつである敦賀市神楽町の善妙寺ご住職によれば715年よりさらに古い可能性があると伺いました。宇佐の神宮寺とどちらが早いのかということも興味があることです。八幡信仰史の研究の中では敦賀には白鳳期などの痕跡が全くないことから715年説にも疑問がなされています。そこで「タラレバ」ですが、南北朝の戦いの時、北朝に味方をしていたら（・・・）、また織田信長の敦賀侵攻に

際し、朝倉方に付かず織田方に付いていれば（・・・）、氣比神宮の古代の勢力・威容が残されていたのではないかと？ 明治政府の廃仏毀釈（神仏習合禁止）、神社合祀政策がなかったら（・・・）？ 太平洋戦争時の敦賀空襲がなければ（・・・）？ など残念な歴史が繰り返され、氣比神宮も敦賀の街も現在のようになっています。もし「タラレバ」のように逆になっていれば古い時代の痕跡も多く残っていたのではないかと思います。あるいは氣比神宮寺が最も早いという痕跡も？

いまさら「タラレバ」といってもしょうがないのですが、後悔の感情ばかりでそれをとらえるのではなく、反省して前に、未来に向かって進む道しるべとするべきではないでしょうか。コロナ禍や異常気象にしても「タラレバ」が多くあるように思います。振り返ってみると、私的には「タラレバ」ばかりの毎日を過ごしてきていますが皆様はいかがでしょうか？

追記）氣比神宮寺の創建に関しては興味深い言い伝えがあります。藤原不比等の子で光明皇后の兄である武智麻呂（むちまろ）の夢に氣比大神が現れ、自分は宿業により神となっているが苦しい。仏道に帰依するので救ってほしいと訴えられたそうです。その為、武智麻呂が神宮寺を創建したとのことです。古い古い時代は山・木・岩などが神であったものが、人間が神としてあがめられるようになり、それは実は神になった人にとって苦しいということなのでしょう。何かしら皮肉でユーモラスな人間臭い感じですね。今時戦争後天皇も神から人間になられたわけですが、苦しみから解放されたのでしょうか？ この世に存在した人間を神とするのは多くの神社であります、危うい感じがするものもありますね。

解説）本時垂迹説＝神道の八百万の神は実は様々な仏の化身として日本の地に現れた権現であるとする説。例）天照大神＝大日如来、八幡神・応神天皇＝阿弥陀如来、市杵島比売命（いちきしまひめ）＝弁財天、大国主神＝大黒天などです。

なんとなく我々の外来のものに頼るとい国民性がこの頃からあったのでしょうか？ 反本地垂迹説も主張されるようになり明治政府はこの説を受け入れ、行き過ぎた宗教政策をとり、結果、国宝級の文化財が破壊され、海外に流出することになりました。また、先の大戦において主導的イデオロギーとなりました。

空海、鎌倉仏教は本地垂迹説を支持したようです。

参考）八幡信仰の研究 中野幡能著
劍神社 由緒書
若狭神宮寺 略歴

「炎天下巡る宮寺音もなし」「宮寺の面影朧に風炎ゆる」
川上医院 院長 川上 究

敦賀の細道 ひゃんぷり行く

よたよた 奮闘記 第十九弾

【氣比神宮寺の巻】

さてさて、久方ぶりの「ヨタ

ヨタ歩きの奮闘記」、何しろ世の中コロナ禍、ソーシャルディスタンスやマスク会話などコミュニケーションがとりにくい環境のため、自粛を余儀なくされた。

真夏の炎天下、高齢者二人のお散歩。無理は禁物。「車で行くで！」「散歩やないな(笑)」

といいながら、今回は氣比神宮の「神宮寺」をテーマに敦賀のまちづくり活性化のため「角鹿会(かくろくかい)」という神宮寺の流れをくむ現存の六ヶ寺を巡る散歩をしたい。難しい話は表面に任せて、裏面ではお散歩奮闘記をお届けする。

氣比神宮周辺には、日本最古の氣比神宮寺に起源をもつとされる寺院が栄新町、神楽町、元町、金ヶ崎町に現存している。また、この周辺を昔、「かくろく」と呼ばれていたことから「角鹿会」と会名を決定。今後北陸新幹線敦賀駅開業に向けて市民や観光客に楽しんでもらえ

る企画を考えると。

そもそも神宮寺(じんぐうじ)とは、日本で神仏習合思想に基づき、神社に附属して建てられた仏教寺院や仏堂。日本に仏教が伝来した飛鳥時代には、神道と仏教は未統合であったが、平安時代になり、仏教が一般にも浸透し始めると、日本古来の宗教である神道との軋轢が生じ、そこから日本の神々を護法善神とする神仏習合思想が生まれ、寺院の中で仏の仮の姿である神

を祀る神社が営まれるようになった。鎌倉時代、室町時代、江戸時代では、武家の守護神である八幡神自体が「八幡大菩薩」と称されるように神仏習合によるものであったため、幕府や地方領主に保護され、祈禱寺として栄えた。

しかし、そのために檀家を持たなかったため、明治時代の廃仏毀釈でほとんどの寺院が神社に転向、あるいは消滅するなどし、急速に数を減らした。現在は、残存した寺院の住職の努力で再興されている。

氣比神宮寺(けひじんぐうじ)は、氣比神宮にかつて存在した神宮寺で、現在は廃寺になっている。記録によれば氣比神宮寺の成立は靈龜元年(715年)で、文献上では全国の神宮寺の中で最古になるといわれている。まず初めに選んだのは角鹿会の会長桃井泰人ご住職の元町の日照山「本勝寺」。京都の本能寺を本山とする法華宗のお寺で

ある。続いて神楽町にある浄土宗、天筒山「善妙寺」。この境内に鳥居があり、手筒山大神を祀っている。神宮寺のなかに神社、不思議な感じがした。次に向かったのは元町にある日蓮宗、具足山「妙顕寺」。同じく元町の法華宗、瑞應山「本妙寺」。

「金前寺」。以上6ヶ所を駆け足で巡った。



氣比神宮を囲むように現存する旧神宮寺を起源とする六ヶ寺。



最初に訪れた元町の日照山「本勝寺」の本堂前にて記念撮影



次に向かったのは大谷吉継公の供養塔で知られる曹洞宗、圓通山「永勝寺」。最後に向かったのは金ヶ崎の真言宗、高野山



同じ元町にある瑞應山「本妙寺」 元町の具足山「妙顕寺」



神楽町の天筒山「善妙寺」の本堂



「金ヶ崎の高野山」金前寺



栄新町にある圓通山「永勝寺」

このように六ヶ寺とも宗派はバラバラ、神社の神様を慰める仏様、なかなか奥の深そうで、ちよつとやさつとでは理解し難い古の歴史の1ページである。この貴重な敦賀の歴史をもっと広く多くの人に知ってもらいたいと「角鹿会」の皆さんはまちづくり活動に励んでいる。応援したい。(河)

【発行】令和3年9月27日(月) かわかみ通信むすびVol. 52 (長月号)

医療法人 川上医院

福井県敦賀市松原町1-39

TEL: 0770-22-0977